土を元気にする活力剤

- 土中微生物の働きをよくし、土の通気性を良くする。
- 根の活力を高め水や肥料の吸収をよくする。
- 夏の暑さによる根ぐされを予防する。

かわらばん 第91号 H26年5月号

肥料は有機でいこう!!　こうしないといい花は咲かない!

肥料の与え過ぎとチッ素過剰が大問題 …… 優秀花の咲かない最大の原因

肥料は乾燥肥料（有機肥料を発酵したもの）と液体肥料を使い分けるのが一般的です。乾燥肥料は発酵熟成したものが最適です。また、液体肥料はアミノ酸の含有量が多いものが生育が良く、優秀花の咲く確率が高くなります。

本物の菊つくりをめざすならこの選択が最善です。

肥料の使い方で大きな失敗となるのが**「肥料過多…与え過ぎ」**と**「チッ素過多…成分無視の使い方」**です。

“与え過ぎた結果がチッ素過剰”と言うのも多々あります。いずれも「葉が巻き込む」「暗濃緑色となる」「小さな葉で異状に厚くなる」などの症状が起きます。最悪の場合は“根ぐされ”となります。

また与え過ぎの例をあげると「培養土に乾燥肥料を混入し、さらに定植時に鉢底に入れる、表土にも置く」などがあります。

特に近年の夏の暑さを考えた場合は“肥料の与え過ぎ”には充分に注意する必要があります。

暑さ対策としては乾燥肥料は発酵熟成した上質の物を使う、液肥はアミノ酸の含有量の多い物を使う（未発酵の有機肥料や化学肥料は使わない）また“培養土に混入や鉢底の施肥はしない”これだけでも失敗は大幅に減らすことができます。

肥料除去ならおまかせ

肥料の使い方 ココ を注意!!

夏の暑さは、今までは大丈夫であっても失敗になることが多くなってきました。
今までの失敗例からこれだけはぜひ改めていただきたいことをまとめました。

★ 水かけ定期便は根ぐされの元

水の停滞する部分ができやすく
その部分が酸欠となり根ぐされとなる。
水かけの基本は乾くのを待って
タップリかける。

★ 乾燥肥料の表土施肥は必ず土をかぶせる

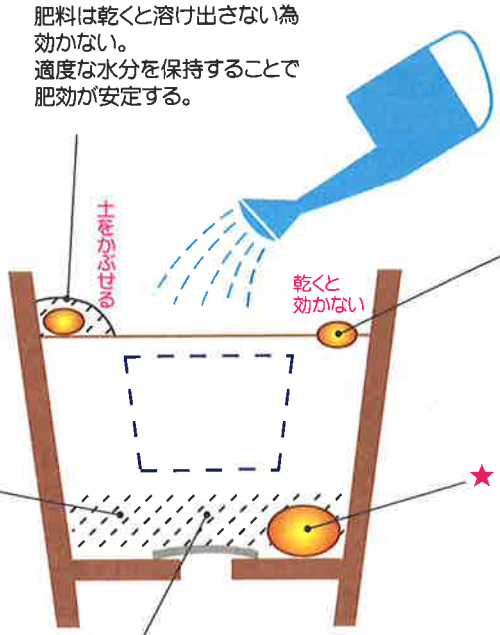
肥料は乾くと溶け出さない為
効かない。
適度な水分を保持することで
肥効が安定する。

★ 液肥も与え過ぎは✕

液肥も与えすぎれば肥料濃度が
高まる。
根いたみ、根ぐされの原因となる。

★ フワフワ植えは根ぐされの元

土の粒子間のスキ間が大きく
毛細管作用が働かない為、水の
移動ができない。
水が鉢土全体に均一に拡散する
ことができなく　停滞する部分
ができやすく根ぐされの元。



★ 乾燥肥料の与え過ぎ✕

肥料濃度が高まり、根ぐされの元。
他メーカーの肥料との重複使用も
同じ。同じ肥効期間内では使わな
い。

★ 未発酵乾燥肥料の使用✕

施肥してから鉢の中で発酵が始
まる為、ガスによる根ぐされ、
根いたみが発生する最悪の使
い方。絶対に止めたい。

★ 鉢底への乾燥肥料の多量施肥✕

根ぐされ、根いたみの原因。
夏の暑さを考えると絶対に止めたい。

★ 乾燥肥料の培養土への混入✕

培養土全体の肥料濃度が高まり、根張不良・
生育不良の原因となる。